

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター高丘担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和8年2月20日（金） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	北部協働センター 第2・3講座室
3 参加者	22名 協議体委員13名、関係機関9名（浜松市高齢者福祉課1名、中央福祉事業所長寿支援課2名、地域包括支援センター高丘3名、市社協浜松地区センター3名）
4 協議の内容	① 「認知症にも優しいまちづくり」への取り組みについて ② 地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ(協議体会長)</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1) 令和7年度第2回協議体会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度第2回協議体会議開催報告書を用いて、振り返りを行った。</li> </ul> <p>(2) 「認知症にも優しいまちづくり」への取り組みについて</p> <p>① 萩丘中地区社協まちづくり勉強会</p> <p>認知症サポーター養成講座（令和8年2月7日に開催）に関して、包括高丘より報告。</p> <p>② にも通信第2号に関して（市社協より説明）</p> <p>【1】配布目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 認知症に関心を持たない高齢世代への周知。</li> <li>II. 子ども・子育て世代へのPR。</li> <li>III. 店舗・飲食店への普及・啓発。</li> </ul> <p>【2】配布先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I. 4月上旬に各町内での回覧</li> <li>II. 各自治会館、公民館での配架・掲示</li> <li>III. シニアクラブ、各地域でのサロンでの配布</li> <li>IV. 民生委員・児童委員への配布</li> <li>V. 北部協働センター、高台協働センター</li> <li>VI. 子育て支援ひろば</li> </ul>	

VII. ふれあい交流センター

VIII. 地域の子ども食堂

IX. ケアマネからの周知

X. ゆくゆくは地域のスーパーマーケットドラッグストア、コンビニへ配架

### 3. 地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み

【第2回のグループワークに関して】（市社協）

①地域住民同士のつながり（隣近所）、自治会、サロン、シニアクラブなどで行われている見守り・事例があれば教えてください。

②新たにできたら良いと思う「見守り」、「交流」はありますか？

①に関して、委員より「**サロンへ行き、生の声を聞いた方が良いのでは**」という意見をいただいたため、高丘北で活動している「高丘北睦会」へ訪問。

参加者より、「このサロンに来ることが見守りになっている」「サロンに来てみると近所の方がたくさんいて様子がわかる」「私もサロンに来るのに勇気が必要だった。」「近所の方を誘うけどアパートの方はなかなか来ない」などの声をいただいたことを報告。

【第3回協議体のグループワークに関して】（市社協）

第2回協議体のグループワークでは、「自治会長」「地区社協関係者」「民生委員・児童委員」「シニアクラブ」などそれぞれの立場から「見守り」についてお話しいただいた。

第3回協議体では、**それぞれの立場、組織的なきちんとした見守りの手法・仕組みではなく、ゆるやかにさりげなく行っていること、皆さんが普段から心がけていること、福祉活動とは意識せずに取り組んでいること、自身のことでもなく、目にしたこと、もしかしたらこれも見守りになるかも、これを意識することで、地域住民や地域の社会資源でさりげなく参加する見守りのヒントになるかもなど、**萩丘中、葵・高丘の地域住民が「もしかしたらこれも見守りになるかも」「できそうなこと」をお話しいただくよう説明。

①～③を各グループで話し合う。

①個人（地域住民）

②企業・商店

③福祉施設・福祉機関

【地域における見守りの対応事例について】（市社協）

【他の圏域における見守りの事例について】（市社協）

【グループワーク】

Aグループ

①個人（地域住民）

- 畑が多く散歩しやすい。高齢者夫婦をよくみかえる
- 犬の散歩コース⇒犬を飼っている人同士のコミュニティ。同じ時間だから毎日会う。
- 情報屋さんがある。⇒毎日家の前を歩いて色んな話をしてくれる
- 花川運動公園⇒テニスをする方、花見をする方が多いので、人と会うことが多い。
- 班長会（月1回）⇒どこの誰が何かわかる。
- 登下校の見守り

②企業・商店

③福祉施設・福祉機関

Bグループ

①個人（地域住民）

- ゴミ出しの場
- 地域で行う草刈り（公園で2カ月に1回）
- 敬老会、カラオケ、輪投げの会
- 回覧板（回覧版が途中で止まってしまったため、安否確認した）

②企業・商店

- 企業が地域のクリーンディに協力してくださっている
- 個人商店
- 地域の自動車販売店がゴミ捨て場を気にかけてくださっている
- ひだまり広場のような居場所

③福祉施設・福祉機関

Cグループ

①個人（地域住民）

- 同じ時間にゴミ出しすると顔合わせする。
- 朝の旗振り活動（子どもだけではなく気を配る）
- カフェ、健康マーじゃん、ボッチャ、絵手紙（月2回の安否確認 若い方の参

加もあれば目も広がる)

○老人クラブ

○見守りの目を増やす(窓の空き具合など)

○ながら見守り(自宅近くで無理のない方法で自治会が中心となり進める 回覧版でながすなど)

○近所の高齢者夫婦 気にかけて見守っている

## ②企業・商店

## ③福祉施設・福祉機関としてできること

Dグループ

### ①個人(地域住民)

○公民館は身近な存在 同好会、ヨガ、体操教室、カラオケ(月4回)

⇒趣味が共通でつながりができる。

### ②企業・商店

○コンビニ(あの人今日は来ていないなど目配り、声掛けが可能かも)

### ③福祉施設・福祉機関

#### 【見守りにつながる地域住民の交流】

①見守りにつながる地域住民の交流のツールとしてボッチャを紹介。

⇒圏域内のサロン活動、小学校でのクラブ活動でもボッチャが行われていることを説明。

②協議体の委員がボッチャ体験。

③ボッチャを地域のサロンやイベントで紹介して欲しいと説明。

#### 4. 事務連絡

来年度の協議体会議に関して

年度替りによる所属や役職の変更、協議体委員の継続について、調査票に記入いただいた。

#### 5. あいさつ(協議体副会長)

#### 6. 閉会

5 今後の見通し・  
必要な対応

来年度協議体会議について

① 「認知症にも優しいまちづくり」への取り組みについて

にも通信の回覧等の反響、今後の検討内容に関して話し合う。

② 地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み

第3回協議体会議で出た内容をもとに、引き続き、地域でつながりを持って暮らしていける仕組み・社会資源の検討を行う。